

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 総務部総務課長 藤井徹 電話番号 0852-22-5011

事務事業の名称	島根県立大学学部等設置事業	
目的	(1) 対象	公立大学法人島根県立大学
	(2) 意図	18歳人口の減少などに伴う、県内高校生の4年制大学への進学志向、栄養・保育など資格職に求められるニーズの高度化などに対応するため、松江キャンパスを4年制大学化するとともに、高校生等の短大進学ニーズを踏まえ、短大の一部を存置する。
事業概要	松江キャンパスの短期大学部3学科（健康栄養学科・保育学科・総合文化学科）全てを4年制化し、健康栄養学科を出雲キャンパスに移転する。なお短期大学部は、定員を見直した上で2学科（保育学科・総合文化学科）を継続する。このことに伴う施設整備、移転、備品等に伴う費用を補助する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	公立大学法人島根県立大学業務実績に対して公立大学法人評価委員会が行う年度評価の評定平均値	目標値	3.50	3.50	3.50	3.50	点
	式・定義	各年度計画の評定値（1～5）の合計／年度計画項目数	取組目標値					
			実績値	3.50				
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	154,500	610,996
うち一般財源 (千円)	77,800	119,396

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- 出雲キャンパス新棟については、平成29年12月中の工事完了に向けて事務を進めた。
- 文部科学省、厚生労働省等に事前協議を行い、平成29年3月に学部等設置に係る申請ができるよう準備を進めている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

出雲キャンパスの新棟建設の契約を結んだ。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 平成30年以降、学生の共用スペースに不足が生じる。
- 既存施設の各部屋の用途変更及び老朽化等に伴う大規模な改修等が必要。

②困っている状況が発生している「原因」

- 4年制化及び短大存置に伴い、収容定員が現在の460名から614名に増加する。
- 健康栄養学科が出雲Cに移転することにより、存置学科では必要ない調理実習室等が空きスペースとして残ることとなる。また、松江キャンパスは最も古い施設では建築から40年近くが経過しており、老朽化が著しい。

③原因を解消するための「課題」

- 定員増加に伴い不足する共用部分については、一定規模の新棟を建設して対応する必要がある。
- 4年制化に伴い必要となる講義室等は現有施設を改修する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 既存施設を最大限活用するが、それでも不足する図書館等の機能について、新棟を建設して対応する。
- 既存施設については用途変更に伴う改修や、老朽化、バリアフリー化に対応する改修を実施する。

9. 追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。